

平成 27 年度第 3 回安曇野市博物館協議会 会議概要

1	会議名	平成 27 年度第 3 回安曇野市博物館協議会
2	日時	平成 28 年 3 月 25 日 午後 1 時 30 分から午後 4 時 00 分まで
3	会場	安曇野市役所本庁舎 3 階 共用会議室 305
4	出席者	笹本会長、滝沢副会長、赤沼委員、平倉委員、小野委員、細野委員 橋渡教育長、那須野文化課長、宮下高橋節郎記念美術館長、降旗豊科近代美 長兼穂高陶芸会館長、大月飯沼飛行士記念館長、逸見穂高郷土資料館担当、 堀田淵行男記念館副館長、清水貞享義民記念館長、
5	担当課出席者	山田文化課長補佐、小倉博物館係員、丸山文化振興係主事
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0 人 記者 1 人
8	会議概要作成年月日	平成 28 年 4 月 20 日

協 議 事 項 等

○会議の概要

- 1 開 会 (那須野文化課長)
- 2 あいさつ (橋渡教育長)
(笹本会長)
- 3 報告・協議
 - (1) 平成 28 年度各館事業計画について
 - (2) 安曇野市新市立博物館構想について
 - (3) その他
 - ・附属機関見直しに係る安曇野市博物館条例の一部改正について
- 4 その他
- 5 閉 会 (那須野文化課長)

○協議概要

- (1) 平成 28 年度各館事業計画について

○各博物館・美術館長 (資料内容説明)

○委員からの意見

会長・・・今、地域創生が言われる中、地域の未来を背負って立つのが博物館であって、その博物館をいろいろ指導し意見を言うのが本協議会です。本日も御協力をよろしくお願いたします。

安曇野市新市立博物館構想が出ていますが、豊科郷土博物館ではその準備が始まります。また館自体の活発化の流れのなかで、県立歴史館や県の埋蔵文化センターとのつながり、さらに新たに松本藩領博物館連携事業など広い視野で行動を始めたところですよ。

8 月 11 日の山の日の制定に伴い、山に対する着目は増えてきます。恐らく田淵行男記念館はそれをリードしながら、地域の文化を向上させる役割も持ってくるのではないかと思います。

高橋節郎記念美術館では、そば猪口アートなど産業の方面にまで貢献しているということです。次の時代をつくる契機を提供していただいているのは大変ありがたいと思います。

貞享義民記念館では、「生きる権利の主張」という非常に重要な視点から活動をしています。もう一つ重要なのは、講座等の定員を制限して内容の充実を図っていることです。人数を増やすことだけが目標ではないことをきちんとおっしゃっていただき、ありがたく思います。

穂高陶芸会館についてですが、今年度末の特別展、奥田信斎展はいろいろな形でもっと着目されると思います。それから、アジサイの陶芸会館という方向に持っていけないか、ということでそれぞれの施設で見所をつくっていく必要があります。

飯沼飛行士記念館の来館者が、遺跡、旧家めぐりのコースによって増えたということは、この博物館協議会は横に連動しているというすごく重要な視点を与えていただいたと思います。

穂高郷土資料館の昔の暮らし体験教室は、皮膚感覚等を通して教育することがもっとも大事になる。安曇野市の博物館の役割としても、曾根原家住宅やこういったことをうまく利用しながらやっていくことが大きな鍵になってくると思います。

委員・・連携事業など、各館の展示がすごく魅力ある形になっており、よい印象を持っています。出前展覧会を拝見してきましたが、来年も継続を検討いただければと思います。期間が延びればありがたいなと思います。各館それぞれ個性があつて所蔵資料が違うわけですが、何かテーマをひとつ設定すると魅力的な展覧会になるかなという気がします。

会長・・市内全体がお祭り騒ぎになるようなテーマというのもまた考えていかなきゃいけないだろうと思います。連携事業を始めとして相当大きく変わってきました。これは今後とも是非お続けいただきたいと思います。

委員・・本当に横のつながりができてきて楽しいなというのはすごく感じます。豊科郷土博物館の人権パネル展は、名前を見た限りではちょっと飛びつけるような感じではなかったので、子どもやお母さんに「あ、行ってみたい」と思わせるキャッチフレーズのようなものを考えていただけたらよいかと思いました。また、グッズ等があればよいと思います。

美術館の無料開放期間について、来年度はなぜ3日間なのかと疑問を持ちました。できれば1週間やってほしいと思います。

ギャラリートークも9月10日から25日までとありますが、できればその期間中は毎日開催して欲しいと思います。休館日についての問題提起として考えていただければと思います。

会長・・親の目を持って意見を言うだけで結構ありがたいと思います。キャッチコピーはとても大事で、実は内容以上に表題で人の心をつかむところがあるので、博物館・美術館では是非その点、今後努力していただきたい。無料開放日については、例えば2回に分けるとか、いろいろな方策を考えていただきたいと思います。

委員・・出前展覧会について、是非来年度もみらいとか、きぼうとか、市民が気楽に行けるところでやっていただけるといいかなと思いました。英語でパンフレットを作られるということだったので、ぜひ高橋節郎美術館も英語のワークショップで外国人観光客を引き入れる方策を考えていただけたらなと思いました。

会長・・これから新市立博物館ができるまでの間、コンパクト展示等で市民の空気を醸成していきます。子どもたちにもわかる、いい展示をつくるためにも、日々みらいのような場所で見たい。これにより美術館・博物館側もスキルアップしますので、是非今後ともご検討いただきたい。

これから先、海外からお客さんが来ればよいという時代ではなくて、どの人たちを

どのように吸い込むかということが問題になっていきます。例えば、白馬にはオーストラリアから多くの観光客が来ています。彼らの行動範囲はすごく広いので、ひとつの市やの町にとどまらず、横にどうやって繋がるかが大事になってくると思います。

委員・子どもたちも市民も、何回でも見に来てもらったり、あるいは働きかけたりしていくことが大事なことなんじゃないかというのをつくづく感じています。

学校への出前講座は人権についても是非やっていただきたい。

安曇野検定について、市の職員や学校の先生も受けてほしいと思います。合否や点数は別問題で、そのために学習してもらえるし、少しでも興味を持ってもらえるかなと思います。

拾ヶ堰開削 200 年についてもどこかで取り上げてほしいと思います。

会長・従来のように博物館は待つだけでなく、博物館が出ていって意識を変えていく時代になってきていると思います。博物館がおせっかいをするようにしないと、地域がよくなってこないと思います。学校の先生や市の職員の教育も必要になるだろうと思います。

委員・郷土博物館について、体験講座は3年間で全小中学校を回れるような仕組みをつくってほしいと思います。卒業するまでの間に1回は体験できるかと思いますので、多くの子どもたちに学んでもらえるかと思います。

民具ワークショップは、使い方や経験を映像とかイラストとか写真に残していただいて伝えていったら、よりよくなるかと思います。

近代美術館について、本物の芸術に触れる機会というのは、具体的に何をしたらそれがかなえられるかということです。館として具体的にやりたいことを明確にした上で委員会にかけて議論することが必要だと思いますので、そこまで突っ込んだ計画というものを立ててほしいなと思います。また、来館者のニーズに応えるとありますが、このニーズというのはいつどこで把握した、あるいはするのでしょうか。具体的なものがあらわれてこないの、審議する者としてはそれに対して意見が述べられず残念でございます。それからナイトミュージアムについて、アルプスあづみの公園でもサマーイルミネーションというのを計画しています。他の施設とのタイプアップで何かやれたらよいと思います。あるいは、壁面に映像を映して音楽を流すという仕掛けも、きぼうと美術館の間にある壁面を利用してできればよいかなと思いますので、提案いたします。

貞享義民館について、資料の整理のところに「見学者の目線に立って検討し」と書いてあります。目線ではなく、立場という言葉に変えてやればもっとよくなると思います。それから、「見学者にもわかりやすく」というふうに米印で書いてありますけれども、これはどの館でも取り組まなければならないと思います。

高橋節郎美術館ですけれども、電柱・電線を美術館の東側に回せればよいかなと思います。空間を楽しむということで来られる方もいますので、そういう視点から見ていただきたいと思います。

陶芸会館ですけれども、特別展、12年ぶりということで非常に脚光を浴びてうれしいなと思っております。入り口の特別展の看板は大きくしたほうがよいかなと思います。それから洗馬焼の技法について、写真やイラストで展示すれば作陶への理解が深まるのではないかなと思いました。

会長・豊科郷土博物館ですが、教育普及活動、常設展のところに「用水堰の開設と私たちのくらし」(拾ヶ堰開削 200 周年記念)とあります。安曇野は拾ヶ堰によって大きく景観が変わり、生産性も変わってくる。それをみんなが意識していく必要はあると思います。

委員・・設備のことで、貞享義民館のトイレなんですけれども、まだウォッシュトイレは改修されておられません。もし他の館でまだウォッシュついていなかったら、早急に市に申し立てて整備を進めるようお願いいたします。

会長・・大事なのは、こうやって私たち全員が博物館協議会として意見を言っていくことが、博物館の皆さんが活動していくときの都合の良さにもなってきますので、是非またよろしくようお願いいたします。

委員・・入館料の話ですが、市民から見ればどこが指定管理者でどこが直営なんてわからないですよ。そういった目線で市民は考えているというところから本当に考えてほしいと思う。

会長・・大事なのは、圧倒的多くの市民は博物館に入っていないということです。博物館へ行かない人は、なぜ行かないのかということをごどこかで知れば良いなと思います。何度も言いますように、私どもの意見が少しでも市民が博物館とか美術館に来るためのお手伝いになればいいと思います。市の博物館、美術館は我々の協議会をうまく利用していただきたい。

委員・・NHKのBSで放送された田淵行男さんの番組が大変良かった。鑑賞会をどこかでできると、田淵行男さんのことが本当によくわかると思います。

田淵館・・その件について、いろいろご意見をいただいています。ただ、不特定多数の皆さんに周知したい場合には、NHKの許可を取らないと難しいところがあります。なかなか了解いただけなかったというのが現状でございます。

会長・・せっかくいい番組が流れたんだから、それがどんなふうにしたら活用できるか、それは今後また考えていただきたいと思います。

委員・・今後、将来にわたって是非人を育てていただきたい。新しい展示もいろいろ実現していただいているんですが、活字等にして展示を記録に残すということを是非やっていただいて、次の展示にまた生かしていただきたい。

会長・・活字化の問題について、「安曇野風土記」ですけれども、2冊目が出ますと、翌年、3冊目が出せる準備になっております。ああいうものが幾つかそろえることによって「安曇野市」という特徴がつけられるんじゃないかと思っています。

もう一つ、人をつくるという話ですけれども、安曇野市の新市立博物館構想につきましても、建物につくれないのだったら、人をつくるということで要求してあります。

(2) 安曇野市新市立博物館構想について

○事務局からの説明

会長・・具体的にはこういう状況で行くと。それからもう一つは学芸員を早めにとということがあります。建物につくれないのだったら人をつくるしかない、人をつくってでないと何もできないだろうということで私たちは提言してあります。一応現状では即座にとすることは言えませんが、準備室から始まってもうつくり始める。その結果として将来いい博物館ができるように進めていきたいと思っています。

(3) その他

事務局・・非常に活発なご意見をいただいたメンバーは半分以上入れかえになり、今日をもって本年度は終わりとなります。ありがとうございました。

以上

※会議概要は、原則として公開します。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。